

平成 16 年度第 4 回熊本県環境影響評価審査会

議事概要

1 日時

平成 16 年 8 月 23 日(月) 午後 1 時 30 分から午後 2 時 30 分

2 場所

熊本テルサ 2 階「ひばり」

3 出席者

(1) 熊本県環境影響評価審査会

今江会長、内山委員、江端委員、木田委員、古賀委員、鈴木委員、西岡委員、林委員、弘田委員、藤木委員、吉田委員(13 人中 11 人出席)

(2) 事務局(熊本県環境生活部環境政策課)

松見環境政策課長、村山環境生活審議員、宮崎主幹、小田原主幹、小澤参事、河野主事

(3) 事業者等

九州産廃株式会社 9 人

(4) 傍聴者等

傍聴者 4 人、報道関係者 3 社

4 議題

「九州産廃株式会社 廃棄物の最終処分場拡張工事」環境影響評価準備書について

5 議事概要

(1) 事業及び環境影響評価の概要について

事務局(環境政策課)から、今回の事業概要の説明並びに熊本県環境影響評価条例に基づくこれまでの手続の経過及び今後の手続の流れについて説明。

(2) 熊本県環境影響評価審査会意見(案)について

主な審議内容は、次のとおり。

〔施設計画〕

委員

準備書の P7-70 6)の 5 行目の「既存施設に設置している沈砂池について、・・・大きな影響を与えている痕跡は確認されなかった」という意味がわからない。痕跡が確認されなかったから影響は少

ないというのは、少し説得力に欠けるのではないか。河川の痕跡から影響を評価するのであれば、既存施設からの流量についても、表 7-5-2 のように明示することで、評価としての信頼性が上がって説得力がある。

事務局

そのことは、次の〔水象・水質〕で記載している。

委員

了解。

委員

痕跡がなかったというためには、出来るだけ根拠のあるものを示す必要があるということを、しっかり受け止めておいて欲しい。

〔動物・植物・生態系〕

委員

「カワノリ」については、食べる製品としての話と、生物の種類としての話が混乱しているので指摘したが、事業者から実際当該地域での聞き取りと現地の調査を行った結果、昔から「カワノリ」は、なかったという報告を受けた。

植物について、大事なことは、希少種などに指定されているものだけでなく、当該場所ではどのような植物が、分布上重要であるか例を挙げて説明することである。動物についても同じで、評価書の段階ではきちりと仕上げたい。

〔その他〕

委員

方法書の段階ではあまり良くなかったものが、準備書になったときには、体系も整って良くなっている。ただ、骨としては良くなっているが、端々については足りないところがある。今日まとめる審査会意見は、まとめて書くため、具体的な欠点をいちいち挙げないが、前回の審査会で指摘があったところと、この〔その他〕の内容を深く考えて、読みやすい良い評価書をまとめていただきたい。

委員

リストを添付するときに、リストの内容が、統一性が欠けている所があるので、評価書では直して欲しい。水生生物と昆虫のリストでは随分異なる。水生昆虫と陸上昆虫は繋がりがあため、リストの書き方は統一した方がよい。

委員

関連して、P3-27 の「底生動物の調査結果」について、「sp.」という記載がある。種までの同定が出来ないものがあることは分かる。ここでは、「コカゲロウ科」の中に4種類あるが、これは、種類は違うと分かるが、種名までは分からないということで、A B C Dと付けている。これは、一つの表示法で良いが、その次に括弧書きで書いてある、H F G Iというのは、どのような意味なのか分からない。

さらに、その下に「コカゲロウ科の数種」と書いてあり、複数だから「spp.」とある。書き方の処置としては間違っていないが、数種類とまとめると数の集計ができなくなるのに、この表は欄の数で集計している。

また、その下の「クシゲマダラカゲロウ」の欄には(S)となっているが、このような表記をどうするか。

書き方のルールをどのようにするのか考えなければならない。今後のために検討して欲しい。

事業者

今後検討したい。

以上

配付資料

会議次第

「九州産廃株式会社 廃棄物の最終処分場拡張工事」環境影響評価準備書に関する環境影響評価条例手続き等について（次第裏面）

「九州産廃株式会社 廃棄物の最終処分場拡張工事」環境影響評価準備書に関する熊本県環境影響評価審査会意見（案）